610 夏の夜や蚊を疵にして五百両

其角翁

「春宵一刻値千金」を一捻りした、着想の面白さが句の命です。「夏の夜は春に劣らずよいものだが、蚊がうるさいのだけは欠点だ。まあ、春が値千金なら、夏はその半分、五百両というところか」というのです。この地に伝わる一道統に、芭蕉―其角―（中略）―春湖―十湖―随處があります。百句塚は随處が発起人となったことで、其角の碑を建立したのです。

季語　夏の夜（夏）
場所　東区豊西町
　　十湖百句塚
建立　明治 39 年

榎本　其角（1661 － 1707）江戸の人。宝井氏とも。医師。蕉門十哲の一人。芭蕉の臨終に立ち会い「芭蕉翁終焉記」を著す。

611 夏をとへば引佐細江や秋の声

里村紹巴

紹巴は、光秀の謀反を承知していたのではと、秀吉の詮議をうけた連歌師。永禄10（1567）年、京と駿河府中の往還の途中、楽しみにしていた引佐細江を訪れたのは6月27、28日。もう風は秋の気配だったというのです。紹巴を待ちうけていた山村修理は、この2年後、家康の遠江侵攻に対し、気賀の人々1500余名と堀川城に籠り抵抗し、切腹して果てた武将です。

季語　秋の声（秋）
場所　北区細江町気賀
　　葭本川河口
建立　昭和 57 年

里村　紹巴（1524 － 1602）京都連歌会の第一人者で宮廷人や地方武将との交流も多い。本能寺の変を予め承知していたとする「明智光秀張行百韻」の逸話は有名である。

613

何事もかゝる浮世か月の雲

十湖

この句は十湖の得意の句です。この碑の他にも、東京、菊川、浜松と、時代も場所も離れ計4基建てられています。これは最初のものです。花鳥諷詠のようでありながら、「かゝる」に「斯かる」「懸かる」を掛け、かなり教訓臭のする技巧的なものとなっています。引佐麁玉郡長当時の句で、西遠吟社によって春季皇霊祭（明治18年3月21日）に除幕されました。

季語　月の雲（秋）
場所　北区引佐町金指　実相院
建立　明治18年

松島　十湖（1849－1926）遠江を代表する旧派の宗匠。夷白、嵐牛、春湖に師事。俳諧と報徳の融合を図り、教訓的性格の句を特色とする。百人一句塚の主宰者。門人と句碑は全国に分布。

634

後の世のやみはてるまじ鵜のかゞり

年立庵十湖

十湖が引佐麁玉郡長であったころ山紫水明楼と名付けた官舎がすぐ近くにあり、都田川と細江湖、広がる田畑が一望できるこの寺を愛し訪れることがしばしばでした。

河口付近に点滅し始めた鵜飼の篝火を眺めながら「鵜飼の篝火程度では、後の世までを照らすことはできない。やはり修行を積んだ和尚の力、御仏の教えをもってしなければ」と挨拶吟的に詠んだものです。

季語　鵜のかゞり（夏）
場所　北区細江町気賀　東林寺
建立　明治19年

松島　十湖（1849－1926）遠江を代表する旧派の宗匠。夷白、嵐牛、春湖に師事。俳諧と報徳の融合を図り、教訓的性格の句を特色とする。百人一句塚の主宰者。門人と句碑は全国に分布。

648 走しは別か樹になく子規

烏玉

句意は「とすれば、今飛んで行ったのは別のホトトギスだったのだ。先程の樹で、相変わらずホトトギスが鳴き続けているよ」というのです。ホトトギスは渡り鳥で夏を告げる鳥です。昔の人は、その年の初音（忍び音）を誰よりも早く聞こうと、野山に泊まり込むこともありました。風流を愛する人々はホトトギスの鳴き声に特別な関心を寄せたのです。

季語　子規（夏）
場所　東区豊西町
　　豊西上公会堂
建立　明治 12 年

有賀　烏玉（1790 － 1882）東区有玉南町の人。本名・豊秋。別号・幽篁斎。国学者。幕末勤王義団遠州報国隊の理論的指導者。

650 はたらけばふるぞ黄金の春の雨

随處

「勤労・勤勉こそが成功の源、人生に黄金の雨をもたらすものだ」というのです。

大木随處は報徳に生きた俳人で、句にもそうした思想、教訓調が色濃く表れています。これは師・十湖夫妻の喜寿を記念するとして、十湖と笠井新田在住の随處、春雄、竹石が建てた4基の一つ。十七夜観音堂は享保3（1804）年、弘化3（1847）年、慶応3（1868）年の俳額が残るなど俳諧に縁の深い寺でした。

季語　春の雨（春）
場所　東区笠井新田町
　　十七夜観音堂
建立　大正 13 年

大木　随處（1872 ～ 1941）浜松市笠井新田町の人。本名・久市郎。別号・七十二峰庵（十湖より嗣号）。十湖門の四天王の一人。報徳家として、教訓的・人生訓的俳風を特色とした。

654

八九間そらで雨降る柳哉

ばせを

一間は約1.8メートル。「八九間の空」は15メートル以上に及ぶ広がりです。「雨が上がっても水滴を含んだ大きな柳の下だけは、まだ雨脚がこぼれ落ちて来る」というのです。

当時の住職は「柳也」と号した俳人でした。逗留した蝶夢は、芭蕉の句の中から、特にこの句を揮毫しました。柳の大きさに和尚・柳也の人間的大きさを重ねて、感謝の気持ちを表したのです。

季語　柳（春）
場所　中区紺屋町
　　蓮華寺
建立　天明８（1789）年

松尾　芭蕉（1644 － 1694）伊賀上野の生まれ。本名・宗房。別号・桃青。蕉風俳諧を確立。俳聖と尊称される。東海道を往来したが、浜松市、湖西市で詠んだ句はない。

671

花の香ややまとごころにさす日影

甘谷

句は春の日を受けて咲き誇る桜の姿を詠んだものです。桜は日本を代表する花、日本人の心を象徴する花として愛されてきました。

甘谷はこの地で蕉風結社「佳菊庵」を起こした人です。芭蕉―立花北枝―和田希因―高桑闌更―桜井梅室―長島蒼山―甘谷がその道統です。「佳菊庵」は平成の初めまで、江戸期の俳諧連歌の姿を今日に残す全国的にも稀な活動を続けていました。

季語　花の香（春）
場所　東区半田山四丁目
　　松岳院
建立　明治36年

久米　甘谷（1839 ～ 1909）東区半田町の人。もと下石田の伊藤家の人。本名・彦十郎。別号・佳菊庵（一世）。摩訶庵蒼山門の三傑の一人。

672

花の寺静かな人出中に歩す

立子

「花まつりの今日、境内に人出は多いが、浮かれた狂騒はない。みな時折舞い散る花びらの下、長い参道を静かに歩いて行く。私もその中の一人として歩いていることだ」というのです。昭和40年4月、本興寺での花まつり協讃の句会での席吟。華やぎと古寺の静寂さが対照され、三好達治の「甃のうへ」の春愁にかよう趣きを感じる人がいるかもしれません。

季語　花（春）
場所　湖西市鷲津
　　本興寺
建立　昭和 52 年

星野　立子（1903 − 1984）高浜虚子の次女、高浜年尾の妹。昭和五年『玉藻』創刊・主宰。

688

はま松は出世城なり初松魚

七十六翁十湖

「待ちに待った初がつおの季節の到来。家康ゆかりの出世城が青葉の向こうに聳えていることだ」と、好季節を迎えた心弾みと、出世城をもつ浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

松島十湖の喜寿を記念しようと、「浜松俳壇」の人たちが句を選定し、建立場所として家康が武運長久の祈願所とした中区の浜松八幡宮に定めました。大正13年4月13日に除幕式が行われました。

季語　初松魚（夏）
場所　中区八幡町
　　浜松八幡宮
建立　大正 13 年

松島　十湖（1849 − 1926）遠江を代表する旧派の宗匠。夷白、嵐牛、春湖に師事。俳諧と報徳の融合を図り、教訓的性格の句を特色とする。百人一句塚の主宰者。門人と句碑は全国に分布。

695

春の海のどこからともなく漕いでくる

山頭火

「小雨に煙る弁天を一隻の小舟が通り過ぎて行く。と、どこからともなくまた一隻。静かな春の海である」というのです。

弁天島の松月旅館に泊した時の吟といわれます。当日は「春雨しとしと」の曇、翌出立の日は「風雨はげしかった」とあります。旅館の部屋から、酒三昧で眺めた海でしょうか。この句は浜松到着6日前の日記に見え、本県の弁天島か疑問が残ります。

季語　春の海（春）
場所　西区舞阪町弁天島
　　弁天島海浜公園
建立　平成3年

種田　山頭火（1882 － 1940）山口県生まれ。本名・正一。別号・田螺公。『層雲』同人。自然を愛し旅と酒と句作に生きた。浜松来訪は二度。特に鴨江町在住の細谷野路が心のこもったもてなしをした。

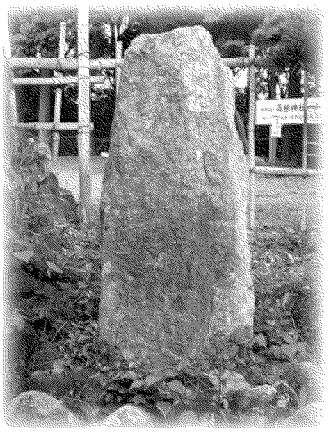
699

春もやゝ気色とゝのふ月と梅

ばせを

「月は朧にかすみ、梅もほころび始めた。春も次第に気色・趣きが整って来たよ」と画を見て、一句を添えたものです。句などを画に書き添えることを画讃といいます。主役はあくまで画です。

建立年は、同時に建った碑の一つに「八十八翁幽篁斎烏玉」とあり、幕末に遠州報国隊を組織した国学者で俳句もよくした有賀豊秋、俳号烏玉の88歳の年と推定できます。



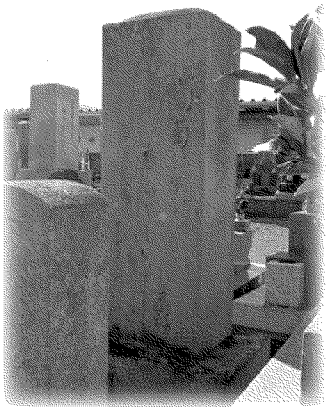
季語　梅（春）
場所　浜北区尾野
　　金刀比羅神社
建立　明治10年

松尾　芭蕉（1644 － 1694）伊賀上野の生まれ。本名・宗房。別号・桃青。蕉風俳諧を確立。俳聖と尊称される。東海道を往来したが、浜松市、湖西市で詠んだ句はない。

743 葡萄の実熟したりけり玉の色

左光

「秋の日差しをうけて熟しきった葡萄の実が深い色をたたえている。まるで宝石のようだ」というのです。この句は左光の得意の句で、文政7年の七回忌に定明寺、幕末に普伝院、明治39年に福来寺境内にそれぞれ建てられました。学究肌で酔春亭連を起こし、遠江の俳人の句を集めた『遠津安布美句集』の著書があります。この碑の側面には一門の名が刻まれています。



季語　葡萄の実（秋）
場所　東区笠井町
　　定明寺
建立　文政7（1825）年

内藤　左光（1740 － 1818）東区貴平町の人。通称・彦端、嘉弥太。別号・酔春亭。『翁百吟解』『遠津安布美句集』を著す。

748 布団からあたまだけ出す初日かな

桂月

大正4年の春、奥浜名湖の琴水旅館の前身・湖月旅館に逗留した時の吟です。明治40年創業で、まだ木の香がしたことでしょう。「元旦から朝寝を楽しみ、初日の出を布団から頭だけを出して見ることだ」というのです。ちょっと不謹慎ですが、身も心もくつろいでいる様子が浮かびます。主人のもてなしに対する感謝の吟なのでしょう。旅館には扁額が残されています。

季語　初日（新年）
場所　北区三ヶ日町都筑
　　琴水旅館
建立　昭和43年

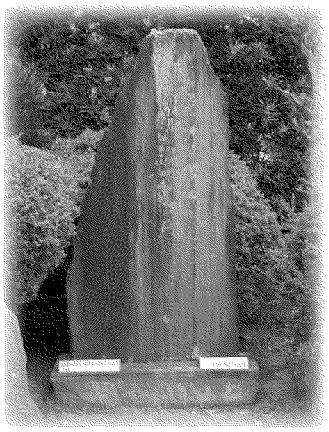
大町　桂月（1869 － 1925）高知県の生まれ。本名・芳衛。評論家、詩人。俳句は「筑波会」に属した。

759

ふる池や蛙とびこむ水のおと

ばせを

蛙の飛び込む音によって　静寂の世界に動きが与えられ、またもとの静寂に返る、刹那の中に永遠の閑寂な相を把えた句。静寂幽玄の句風を打ち立てる基となった句です。芭蕉はこの句によって文化3（1806）年、朝廷から飛音明神の神号を賜り、以後「ふる池」の句碑は各地に建立されました。百人一句塚建立を企画した蕉門俳人十湖には、中心碑とすることに躊躇はなかったはずです。



季語　蛙（春）
場所　東区豊西町
　　御嶽神社
建立　明治29年

松尾　芭蕉（1644 － 1694）伊賀上野の生まれ。本名・宗房。別号・桃青。蕉風俳諧を確立。俳聖と尊称される。東海道を往来したが、浜松市、湖西市で詠んだ句はない。

781

郭公かけたと啼かはしご坂

也有

句の面白さは、ホトトギスの「テッペンカケタカ」という鳴き声を、地名「はしご坂」と呼応させ、「梯子を架けた」とした機知にあります。秋葉街道を通って「はしご坂」にさしかかると、鯉昇という俳号をもったその地の郷主・和田佐太夫の家がありました。也有の門人です。秋葉詣での途中に立ち寄った師の挨拶吟を、記念碑として建立したものと思われます。

季語　郭公（夏）
場所　天竜区龍山町大嶺
　　中島邸
建立　寛政11（1800）年

横井　也有（1702 － 1783）尾張藩の重臣。本名・孫右衛門時般。別号・半掃庵。太田巴静門。俳文集『鶉衣』を表す。

788 保呂々々と山吹ちるか瀧の音

ばせを

「ごうごうと響く流れの音に、山吹の花もほろほろと散りこぼれるであろうよ」というのです。「ほろほろと」という言葉が効果的で、風などで散るのではなく、響きのために散るという印象を強くします。

この地で活動していた幕末の蕉門結社「雪の縣連」の人たちが、芭蕉没後150年忌追善として建てました。瀑布山不動寺という山号に適った句と考えたのです。

季語　山吹（春）
場所　浜北区平口　不動寺
建立　弘化2（1846）年

松尾　芭蕉（1644 − 1694）伊賀上野の生まれ。本名・宗房。別号・桃青。蕉風俳諧を確立。俳聖と尊称される。東海道を往来したが、浜松市、湖西市で詠んだ句はない。

812 まどうつや秋をさだむる夜の雨

鼠来

「雨は夜になっても止まない。窓を打つ寂しい雨音を聞いていると、確かな秋の訪れを感じることだ」というのです。季節の到来を聴覚的に捉え表現するのは伝統的な手法です。ただしここからは、企んだものは感じられません。

鼠来は浜松藩の下級武士の出で、貧しさゆえの逸話が幾つか残っています。碑は、古稀を迎えた鼠来への、俳友からの寿碑なのでしょう。

季語　秋（秋）
場所　中区龍禅寺町　龍禅寺
建立　明治14年

堀川　鼠来（1818 − 1887）中区早馬町の生まれ。通称・幸七。別号・青々処、不老軒。旧浜松藩士。

822

蜜柑山の上の上なる山もみかん

久米正雄

三ヶ日町は国内有数のみかんの産地。その季節には山全体が黄色に染まります。地元の人にはごく当たり前の収穫期の景色も、生産地以外の人には、息をのむような驚くべき光景です。句は、対象を視覚的にとらえた上下対称の「みかん」「山」「上」の繰り返しで、表現としてはむしろ稚拙に近いのですが、それゆえにかえって素朴な感動がストレートに伝わってきます。

季語　みかん（冬）
場所　北区三ヶ日町宇志
　　三ヶ日中学校
建立　昭和 57 年

久米三汀　正雄（1891 － 1952）長野県の生まれ。小説家、劇作家。号・

828

短夜やされどたしかに夢ひとつ

七十二峰庵十湖

「人生は短いというが、まだ実現しなければならない夢がある」との意欲を吟じました。旧派の宗匠として飛躍を目指していた時期の作品で、晩年の諦念とは無縁です。森町出身の明治精糖事業創業者・鈴木藤三郎邸新築祝いにも、この句を碑にして贈っています。後に辞世と誤解されたのでしょう、今は伊豆土肥温泉の老舗旅館の創業者の墓の傍に移築されています。

季語　短夜（夏）
場所　東区豊西町
　　御嶽神社
建立　明治 29 年

松島　十湖（1849 － 1926）遠江を代表する旧派の宗匠。夷白、嵐牛、春湖に師事。俳諧と報徳の融合を図り、教訓的性格の句を特色とする。百人一句塚の主宰者。門人と句碑は全国に分布。